

## 今週のメニュー

■[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 角倉 護

■[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

■[編集後記](#)

## ■年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 角倉 護

あけましておめでとうございます。  
新年に当たりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

世界経済は、一部に弱さがみられ、政治環境の変化による不透明感はあるものの、全体としては緩やかな回復基調にあるものと思います。わが国経済も、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復基調にあります。

こうした中、昨年の塩ビ樹脂は、国内出荷量は、暦年で101万トンと前年同等でしたが、輸出は58万トンと対前年若干増となり、総出荷量は159万トンと過去6年間で最大となる見込みです。

今後は2020年の東京オリンピック開催に向けて、建設やインフラ整備などで国内の需要が力強く伸びて行くものと期待しております。

ここでVECの活動について主要な3点を紹介させていただきます。

まず、6回目となったPVCデザインアワード2016です。今回も多くデザイン提案、製品応募をいただきました。本アワードがデザインに従事する巾広い年齢層に浸透してきたと感じております。また、過去の受賞作品から商品化されるものがいくつか登場し、テレビなどでも取り上げられるようになりました。今回は、日本デザイン振興会のグッドデザイン丸の内にて展示会を開催し、約4000人もの方に来場いただきました。アワードが一般の方々にも塩ビ製品を認知いただく機会となっています。これを、さらに発展させていきたいと願っております。

次に、樹脂窓です。サッシメーカーやハウスメーカーなどが樹脂窓、複合窓などの断熱窓を一般商品として扱い始めたことで、昨年、アルミ製窓を数で初めて逆転いたしました。また、2016年度の補正予算で住宅ストック循環事業を11月から開始したため、改修用途の内窓の需要も好調に実績を伸ばしているようです。住宅・建物の断熱性能向上は、温暖化対策として、また、高齢化が進む中での住まいの質を高める上で極めて重要性の高い課題です。



VEC 角倉会長

賀詞交歓会でご挨拶頂いた  
経済産業省 佐藤審議官

当協会は、芝浦工業大学/秋元教授や日建設計総合研究所と共に「ZEB/ZEHの実現を考える会」を発足させ、経産省の担当官の方にも参加をいただき、断熱改修を促進するためのデータ取りに取り組んでいます。窓に限らず、良質の住宅・建物に貢献できる塩ビ建材の可能性は大きいと考えております。そのポテンシャルを花開かせるよう努力を続けて参ります。

三つ目は、リサイクルへの取り組みです。当協会のリサイクル支援制度で、「塩ビ壁紙のマテリアルリサイクル技術の開発」を昨年12月に採択しました。これまで困難と考えられてきた使用済みの塩ビ壁紙を、塩ビと紙に分離せず塩ビコンパウンドに加工してマテリアルリサイクルを行う画期的なものであります。オリンピックに向けて持続性・資源循環が注目されていますが、塩ビ業界として、着実に技術開発とリサイクルの仕組みづくりを進め、塩ビ製品の優れた環境性能をアピールすると共に世界に範を示して参りたいと思います。



VEC 賀詞交歓会風景

最後に、塩ビ関連産業にたずさわる皆様方の益々のご発展と、本日ご臨席の皆様のご健勝を祈念し年頭の挨拶とさせていただきます。

(1月6日(金)開催のVEC 賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

## ■ 年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

あけましておめでとうございます。

昨年はリオ・デ・ジャネイロでオリンピックが開催され、いよいよ、2020年の東京オリンピックに向けた準備が本格化します。レガシーとして将来に範を示すような環境配慮、そしてサステナビリティが追及されます。それは、姿かたちのあるモノだけでなく、その使い方、あるいは暮らし方も含めたものとなるでしょう。

昨年の暮れに出展したエコプロダクツ展においては、身の回りの様々なところで塩ビ製品が使われ、持続性や環境配慮という観点で大きな貢献をしていることを紹介しました。腐食せずほとんど品質劣化しないことが、インフラの要の一つである給水、排水、下水システムとして貢献します。何十年も使用したのちに再生してまたパイプに戻すことができます。持続性という観点で極めて優れた事例となっています。熊本地震の被災地の復興において、多くの瓦礫を埋め立てに回さざるを得ない状況の中で、塩ビパイプについては、塩化ビニル管・継手協会と関連自治体らとの協力により、排出されたものはすべてリサイクルに回すこととなりました。いずれ再生材を使用したパイプが登場することになります。新たな復興の象徴となると思います。

温暖化対策と住まいの質の向上を同時に解決すべく住宅・建物の断熱性能を高める取り組みにも拍車がかかっています。太陽光発電等との組み合わせにより住宅・建物における

ネットのエネルギー消費をゼロあるいはマイナスにする「ネット・ゼロ・エネルギーハウス（ZEH）」はすでにハウスメーカーの標準仕様となってきました。ZEHを達成するにはH25年の省エネ基準よりも20%以上高い断熱性能が求められます。

建物においてもっとも熱のロスが発生する窓の断熱性能向上は必須の課題となります。国内の窓メーカーが樹脂窓の製造に本腰をいれているのはそのためです。樹脂窓は、効率が高く適切な能力の空調および換気と合わせることでそのメリットを最大限引き出すことが可能となります。このため、樹脂窓と設備機器の連携を高めることが求められます。弊協会にて昨年に出した「ZEB/ZEHの実現を考える会」ではエネルギー消費と住まい心地の両面で最適な住環境を実現することを目指し、基礎となるデータ取得を始めております。

PVC Design Awardは、6回目を迎え、若い世代を中心とする幅広いデザイナー層に浸透してきました。昨年は、完成度をより高める試みとして、作成側がデザイン提案を選ぶことで早いタイミングでデザイナーの方とコミュニケーションを開始し、いただいた提案を基にしつつさらに改善した作品ができるようにいたしました。おかげさまで、最終的に30件に及ぶマッチングができました。今年は、さらに完成度の高い作品が出てくることを期待して試作期間をより長くとれるような工夫をするとともに、これまでの受賞作品も含め、商品化を促進すべく、関係機関の協力を仰ぎ、各種制度・政策の活用も視野に入れて、市場のニーズを的確にとらえて、より完成度、あるいは信頼性の高い製品を育てていくことを高めて進めることが課題と考えます。皆様のご指導・ご助言を賜えればと存じます。

末筆ながら、皆様の益々のご健勝、ご発展を祈念いたします。

## ■ 編集後記

あけましておめでとうございます。

今年は、年末年始の休みが少なかったものの、曜日の関係で、例年より少し遅めのスタートとなりました。今年の干支の酉は「取り込む」につながると言われるとのこと。幸せが取り込めますよう、お祈りいたします。

今年も事務局一同でメルマガをお届けいたします。引き続きご愛読いただけますよう、よろしく願いいたします。（漠）

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、● [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)